

私学の教育課程の展開

- (2)学校を超えたカリキュラム…地域とつながる土曜講座 -

亀田 昭雄 (尾関学園高等学校教諭)

はじめに

私学の時代といわれて久しい。学力格差社会などという言葉も飛び出しているが、地方から見れば、まだまだ東京・大阪近郊の現象にすぎない。筆者の居住する愛知県尾張東部地域、とくに名古屋市東部とその近郊では少しずつ影響を受けているように思われるが、首都圏などと比較できるまでにも至っていない。地方の私学の先生方に接するにつけ、地方私学の厳しさがひしひしと伝わってくる。

毎年、東京で私学教育研究所等の主催による「私学の教育課程研修会」が開かれている。全国から私立学校関係者が集まり、教育界の動向や他の私学における取り組みについての情報交換など、私学の教員にとってなくてはならない場となっている。そのなかで指導・助言の立場にある専門委員の方から、地方の私学の生き残り策として3つあるといわれたことがある。

- 1 通信制課程を活用することによりスポーツ優秀者を集める。
- 2 大都市圏の有力私立大学の冠校（「 大学 高等学校」とする）となる。
- 3 塾的経営手法によって、国公立進学率をアップさせる。

3番目については特進コースなどの特別クラスを設け、可能性のありそうな子供を選抜して今までも行われてきている。一気に進学校として名を上げた学校もあり、保護者のそれなりの共感が得られる。

いま一つは地域との連携である。地域の人々にとって自分たちの学校だと思ってもらうことが大切である。それは単に中学生を持つ保護者が、子供を通わせたいというものにとどまらない。地域にとって不可欠の存在であることが必要なのだ。

現在、筆者が勤務する私立尾関学園高等学校では地域との関係強化をめざして、それぞれの立場で活動を行っている。そのなかで地域に根ざした学校づくりの取り組みについて、実践事例を報告し新たな学校再生への一助になればと思う。

1 地域社会と学校

(1) 地域から評価される私立学校

現在、筆者が居住する愛知県瀬戸市は古くから窯業が盛んな地域である。地元からは今でも瀬戸電といわれる電車（名鉄瀬戸線）が瀬戸から大曾根を経由して、名古屋市を中心部栄町につながっている。沿線には何校かの定評のある私立高等学校があるが、金銭に余裕のある窯焼きさんの家庭ではその子弟を、男子なら現在は進学校で有名なA中学高等学校や、女子はお嬢様学校として知られるB中学高等学校へ入学させるというのが、定番だそうである。

筆者が小学生・中学生の時期を貧乏長屋で過ごした愛知県江南市では、やはりお金持ちの子弟は中学から進学校として知られたC中学・高等学校に進学する子供が多かった。サラリーマン家庭に育った筆者はとりたてて羨ましいとも思わなかったし、お金がある家だからまあ当たり前かと思っていたし、自分の学区の公立中学校のレベルも近隣の中学の中では高かったのでそれほど気にならなかった。

これらABCの学校は戦前からの伝統ある学校である。地域社会においてそれなりの立場を確保している。一朝一夕で成るものではないが、地域社会において確固たる地位を築いた学校となることが、生徒の安定確保の第一歩である。もちろん、その立場に安住することなく、日々の改善に努めなければならぬことはいままでもない。

現在、学校評価についての取り組みが文部科学省を中心に行われている。主に公立学校を中心に活発に行われているが、取り組み状況を総括するなかで、私学の取り組みの遅れを指摘するものがあった。しかし、私学は選ばれなければ生徒は入学してこない。選ばれるためには生徒、保護者、地域社会、そして時代の流れに合致した学校づくりの努力を欠かすことはできない。その意味では、「なぜいまさら取り立てて学校評価なのか」と考えてしまうのは、私学人としては当然ではないだろうか。ただし、学校評価への取り組みについてすべて否定するわけではない。評価の観点や手法については今後も内容の検討を進めていくことが必要であろう。

(2) 本校における地域社会へのアプローチ

筆者の所属する尾関学園高等学校は平成19年3月末をもって創立後24年を経過する。残念ながら、未だ地元で確固たる基盤を築いているとは言い難い。入学生もとくにこの5年間は減少傾向である。だが、生徒の減少が続く中で、教員の一部から地域社会との連携を重視する動きが生まれてきた。

一つの取り組みが地域ボランティアである。最初は通学路の清掃活動からスタートしたが、地域の清掃ボランティアへと拡大している。さらには地域のイベントへの参加なども行っている。高齢化社会を迎え、特に古くからの住宅地における若者不足は深刻であり、地域の伝統的祭りもできなくなってしまった地域も見られる。地域から失われてしまった若者の力を補完する上での、特に大学や高等学校・中学校の学生・生徒の役割は重要である。

私学の教育課程の展開

また、地域における生涯学習の拠点としての大学・高等学校などの役割も大切である。小中学校と比べて、一般社会の希求する教養のに近い内容のものを供給できるのが、高等学校、大学の強みである。

いっぽう、平成15年度からの新教育課程導入に伴って、これまで隔週5日制から完全5日制への移行が推進された。土曜日の生徒の過ごし方について、新たな取り組みが求められるようになった。授業とは異なる新しい学びの場の構築が求められていたのである。そのため本校では平成15年の新教育課程に向けて、平成14年度から月1回の土曜講座を立ちあげることになった。運営のため、土曜講座委員会が設けられた。小牧・犬山両市の教育委員会の後援を得たり、地元の区長さん宅を回ったりと、当時の土曜講座委員長は大わらわで対応を行っていた。

この土曜講座は平成18年度で5年目を迎えた。教員・生徒・地域の人々が講師となり、受講者もまた、地域の人々・生徒・教員である。卒業生が講師を務める講座もある。毎月1回第3土曜日に展開されることから土曜講座と呼ばれている。そんななかで本校の教員に何ができるのかを各先生方は模索してきた。「小論文講座」とか「数学講座」とか教員の担当教科に直結する内容もあったが、そればかりでなく趣味などを講座に置くものも設けられた。本校教員主催の講座では釣り、囲碁、料理などがつくられ、現在も好評のうちに続いているものもある。卒業生が担当する料理講座なども人気である。

2 フィールドワーク「私鉄・地下鉄沿線歴史散歩」

(1) 土曜講座統一企画

土曜講座を設置するにあたり、年度の最終回にバスツアーを実施することになった。地域社会と学校が一体となった一大イベントをめざして、歴史散策ツアーと題して、教員がガイド役となって土曜日の一日を史跡めぐりに費やす企画を作り上げた。筆者も1年目は土曜講座委員として計画に参画した。学校のある小牧は、東名、名神高速道路の基点であり、また京都・奈良といった地域へのアクセスも比較的容易である。バスツアーも好評のうちに毎年開催されている。

[資料1] 統一ツアーの歩み

	年 度	実 施 日	場 所	主なみどころ
1	2002年度	2003年3月1日(土)	京都北山方面	竜安寺、金閣
2	2003年度	2004年3月6日(土)	奈良市内	興福寺、元興寺、東大寺
3	2004年度	2005年2月19日(土)	京都市内	二条城、壬生、御所
4	2005年度	2006年2月18日(土)	奈良市内	奈良市内、平城宮跡
5	2006年度	2007年2月17日(土)	京都・大津	比叡山、園城寺、石山寺、京都東山

ちなみに2006年度はバス3台、120人余りの参加であった。参加費はバス代等で3000円であった。現在、地域の恒例行事として定着しており、毎年参加いただける地域の方も多く、早くから企画についての問い合わせが多く寄せられている。

[資料2] 2006年度統一ツアー用ガイドブック (コース別ガイドの表紙のみ)

2006年度尾関学園土曜講座 古都歴史散策ツアー

C 大津歴史文学コース

- 1 日時 平成19年2月17日(土) 7:30~19:00
- 2 集合・解散場所 尾関学園高等学校
- 3 講師 亀田昭雄 (本校社会科教諭、私鉄地下鉄沿線歴史散歩講師)
- 4 散策経路(予定) 浜大津駅(11:00 到着) →京阪石山坂本線→ 石山寺(昼食)
→ 瀬田唐橋 → 膳所城跡 → 義仲寺
→ 大津事件旧跡 → 浜大津駅(16:00 出発)



[資料3] 2006年度統一ツアーの地域への案内チラシ

生徒・父母・教員・地域で作る学校の中の一つの教室

日時: 2月17日(土)
7:30集合・8:00出発、
19:00帰着予定

集合・解散場所:
尾関学園高等学校

参加費用:
バス座席1席につき**3000円**

2006年度 尾関学園 土曜講座 古都歴史散策 ツアー 第5弾

後援
小牧市教育委員会
犬山市教育委員会



毎年恒例となった本校の歴史散策ツアーも今年で第5回目を迎えることができました。そこで、今年は昨年までの京都や奈良だけでなく、同じく国から古都指定を受けている「大津」にも足を伸ばすことになりました。大津は667年に天智天皇が近江大津宮を開いた昔から、歴史の表舞台に輝きも登場しており、比叡山延暦寺をはじめ有名な社寺や史跡にあふれた歴史深い街です。もちろん「京都」にも訪れます。また、各コースとも本校教員によるガイド付きで丁寧に案内させていただきます。普通の旅行とは違い、教科書や本では分からない歴史の裏側まで見えてくるに違いありません。是非この機会にお友達を誘ってご参加下さい。

コース名 (担当講師名)	コース内容	拝観料等	コース見所
Aコース 比叡山めぐり コース (岡村裕之)	坂本ケーブルカー 延暦寺東塔 (根本中堂・講堂・国宝院等) 日吉大社 坂本の町並み (遺造生園地・旧竹林院等)	1570円 (往復) 550円 300円 別途	○坂本ケーブルカー=世界文化遺産である比叡山延暦寺の御参道として昭和2年(1927)に建設されたもので、駅自体が登録有形文化財であるケーブル坂本駅とケーブル延暦寺駅まで、ケーブルカーとしては日本最長となる2025mを結んでおり、その車窓からの琵琶湖の景色はまさに絶景である。 ○比叡山延暦寺=1200年前に伝教大師真言が比叡山に草庵を結んだことに始まる天台宗の総本山で、日本仏教の本山といわれる。醍醐時代に醍醐天皇の命で全山焼討ちに遭ったが、重臣秀吉や徳川家康の手によって復興され、平成6年にはユネスコの世界文化遺産に登録された。真言が初めて堂を建てたといわれる境内に立つ国宝根本中堂には、1200年間消えることのない「不滅の法灯」があり、室内には歴史と歴史の持つ威厳に満ちている。 ○日吉大社=古事記にその名が見えるなど、神代の昔よりこの地に鎮座する歴史深い神社で、根本宮・西本宮を中心とした多量の社がある。また、京都の東山門(東北)に面することから、国家鎮護、方位除け等の社とされ、さらに伝教大師の天台宗開創とともに天台宗の護法神としての性格も与えられた。また境内の社殿の多くは国宝や重要文化財となっている。また、全国の山王社の総本山でもあり、独特な形の「山王馬鹿」は他に例を見ない珍しいものである。
Bコース 大津 神社仏閣 コース (有賀康文)	三井寺 近江神宮 日吉大社 坂本の町並み (遺造生園地・旧竹林院等)	500円 無料 300円 別途	○三井寺=本名は園城寺というが、天智・天武・持統の3天皇が遷都を促したとされる井戸があることから「井井」、それが変化した「三井」となった。境内には今も湧き続ける井戸や、残したい日本の首飾100選に選ばれた「三井の鏡餅」、生々しい編笠を飾る「井慶の引きづり鏡」など、100点余の国宝や重要文化財の宝庫となっている。 ○近江神宮=天智天皇をまつった神社で、大津京に日本で初めて時計が設置されたことから、時計にまつわる博物館がある。 ○旧竹林院=延暦寺の僧侶が禪修した後に住むための聖域の一つで、延暦寺の中でも格式の高い寺院であった。川の水を引き込み、八王子山を背景とする見事な庭園は国指定名勝になっている。
Cコース 大津 歴史文学 コース (亀田昭雄)	石山寺 瀬田の唐橋 義仲寺 旧東海道町並み	500円 無料 200円 無料 別途	○石山寺=良井南正が聖徳太子の命により開かれた寺院。自身の秘伝如意輪観音像は、聖徳太子が伝えた聖観音あたらかな仏さまとして信仰を集めて、古くから観音信仰が強く、儀式部がここに参拝し清月を見ながら「真珠物語」の情景を思い描いたことにも由来する。また、清少納言、和泉式部をはじめ、松尾芭蕉や鳥崎輪村など、多くの芸術家や文人達から慕われた名刹である。なお石山寺の名の元となり、本堂を支えている巨樹「経依樹」は天然記念物に指定されている。 ○瀬田の唐橋=古くは日本書紀にも登場するほど有名な橋で、東国から来た入道僧侶の役所を兼たし、軍事・交通の要衝でもあった。唐橋を制する者は天下を制すとまでいわれ、7世紀後半の「壬申の乱」、13世紀の「承久の乱」、14世紀の「建武の乱」など、幾多の戦乱の舞台となり、そのたびに破壊・再建を繰り返してきた橋である。 ○義仲寺=源平の争い、東遷を断つことにした頼朝が義仲公の供養のため、一人の尼僧を庵を結んだが、その女性こそ愛妾である巴御前だったとされる伝承が当地にあり、これが義仲寺(ごちゆうじ)の縁起である。江戸時代に入ると木曾藩が寺を再興し、松尾芭蕉がたびたびは臨幸し、遺書によりここに埋葬され、以来全国の俳人達の聖地とされてきた。こちらよりした境内には頼朝公の墓、芭蕉、芭蕉翁の墓のほか、本堂である乾日堂、芭蕉翁を祀る納経堂などがある。
Dコース 京都 華の都 コース (藤岡和俊)	青蓮院 知恩院 円山公園 八坂神社 祇園・四条界隈	500円 境内無料 無料 無料 別途	○青蓮院=青蓮院門跡(しょうれんいんもんざき)は寛田御所とも呼ばれ、門主(住職)が皇女成子は摂関家によって受け継がれてきた。天台宗の京都五箇堂門跡の一つであり、大宮格式の美しいお寺とされている。また、嵯峨御所という見事な庭園や日本三不動の一つである青蓮院でも有名な寺である。 ○知恩院=浄土宗の開祖法然上人によって建てられた浄土宗の総本山。日本一大きいといわれる三門や本堂などは国宝に指定されている。また、知恩院の七不思議といわれるものがあり「左甚五郎の忘れ傘」や「掛け傘」など興味深いものがある。 ○八坂神社=今でも京都市民に「祇園さん」と親しまれている神社。京都三大祭の一つである祇園祭はこの神社の祭礼である。
Eコース 京都 諸行無常 コース (浅井正治)	三十三間堂 豊国神社 方広寺 耳塚 六波羅聖寺 建仁寺	600円 無料 無料 無料 500円 500円	○三十三間堂=本堂の名は蓮華王院という寺院。本堂の内陣の柱間が33あることからこの名が付いた。後白河上皇が、白らの御堂である法隆寺の一角に宇治に命じて作らせられたのが始まり。本尊の千手観音菩薩や奥陣に千手ある観音菩薩の像の圧倒的な姿を思い出すと、甲斐にあらざる入らざると思われた清浄の光華の輝が浮かび上がったようである。 ○豊国神社・方広寺=神社は豊臣秀吉、参道の唐門は、伏見城の城門の一つを複製したもので国宝。また、豊国神社の北側に建つのが方広寺で、秀吉が崇福寺大寺の大仏殿を建てたものである。大仏は奈良の大仏より大きいものであったといわれているが、地震で破壊され、残っているのは聖徳太子の耳や鼻の土遣いだけである。あまりに大きなその塚から感じられるのは天下人秀吉の偉大と、被害にあった朝鮮の人々の思いと怒りではないだろうか。 ○耳塚=秀吉が朝鮮出兵の際に逃らせた、殺した現地人の耳や鼻の土遣いを埋めた塚。あまりに大きなその塚から感じられるのは天下人秀吉の偉大と、被害にあった朝鮮の人々の思いと怒りではないだろうか。 ○六波羅聖寺=源氏公徳に知られる空也上人が平安時代中期に創立した十一面観音を本尊とする蓮華に由来する、国宝十一面観音坐像を初め、空也上人の骨や浄土の理像などの多くの重要文化財を所蔵している。 ○建仁寺=臨済宗の開祖である栄西の開山した日本で最初の禅寺。境内には徳義宗達の「鬼神御所(原田)」や南北宗の権威などの多くの文化財がある。
Fコース 京都フリー コース	円山公園駐車場 (知恩院前)解散 同駐車場集合	各自別途	○各自ご自由で京都の町を散策してください。 現地再集合時間 = 15:30 予定
Gコース 大津フリー コース	東阪大津駅前解散 京阪大津駅前集合	各自別途	○各自ご自由で大津の町を散策してください。 現地再集合時間 = 16:00 予定

★講座のお問い合わせは尾関学園高等学校まで、お電話またはEメールでお願いします。
★講座のお申し込みは、お手元に申し込み書がある方は申込書FAX(0568-79-7705)でお送り下さい。FAXをお持ちでない方および申し込み書がない方は、①区分(一般市民・本校父母・本校生徒・本校教師・他高校生・中学生・小学生・幼児)、②お名前、③ご連絡先電話番号、④希望コース番号、⑤受講希望者名を、お電話か、E-mailで送信して下さい。
★定員に達し次第募集を打ち切りますので、お早めにお申し込み下さい。★参加費用の他に拝観料・入場料・現地交通費・飲食費等は別途必要になります。
★講座の講師や内容、料金等については変更される場合がありますのでご了承下さいませ。
◎電話番号=(0568)79-7700 ◎Eメールアドレス=info@ozekigakuen-h.ed.jp

※このほかにツアー全体のガイド資料があるが、紙面の関係上割愛させていただきます。

(2) フィールドワーク「私鉄・地下鉄沿線歴史散歩」の誕生

土曜講座特別編の統一ツアーは初回から評判もよく、毎月の土曜講座でも企画できないかとの意見があり、2年目から実施できないかと検討に入った。企画にあたって考慮したのは以下の点である。

- 集合しやすい場所であること
- 開始時間、解散時間が毎回一定であること
- 安全が確保できること
- 下見を必ずおこなうこと
- 資料を用意すること

については公共交通機関の便利な場所である駅を集合場所とした。同じ場所に帰ることもよいが、ロスを少なくするためには別の駅で解散するという場合もあると考えた。参加者の利便やコース選びの観点から、フィールドは名古屋市内を中心とした。名称は「私鉄・地下鉄沿線歴史散歩」と定めた。とくにJRを除外するという意図はなく、あくまで講座名の覚えやすさからである。

については、高校生や一般の人々が対象とした「特別編歴史散策」では定年退職した地域の方々が多く参加されていたので、体力も考慮に入れなければならないと考えた。散策時間を2時間と定めた。開始時間は交通の利便を考え、午前10時開始、正午解散とした。

については、必ず後方に本校の教員を助手として配置した。前後を教員で挟むことにより参加者が道に迷うことのない様考慮した。記録を残すという点でも助手の存在は大切である。また、万一に備え、生徒は学校行事のため学校保険の適用範囲であるが、一般市民については1回100円の保険に任意で加入していただいた。

については、事前下見はもちろんだが、当日の下見は必ず行う。当日の下見はこれまで一度も欠かしたことがない。集合の2時間前あたりから逆コースを歩き確認をおこなっている。交通規制は当日ではないとわからないことも多い。古い街道を歩くことが多いため、家屋の解体作業がおこなわれていることがある。また、新しい道路によって古い街道が分断されていることが多いので、横断の位置も確認の必要がある。

については、ルートを記入した地図や、コースの見どころを記載した資料を毎回用意して集合時に一人ずつ配布する。

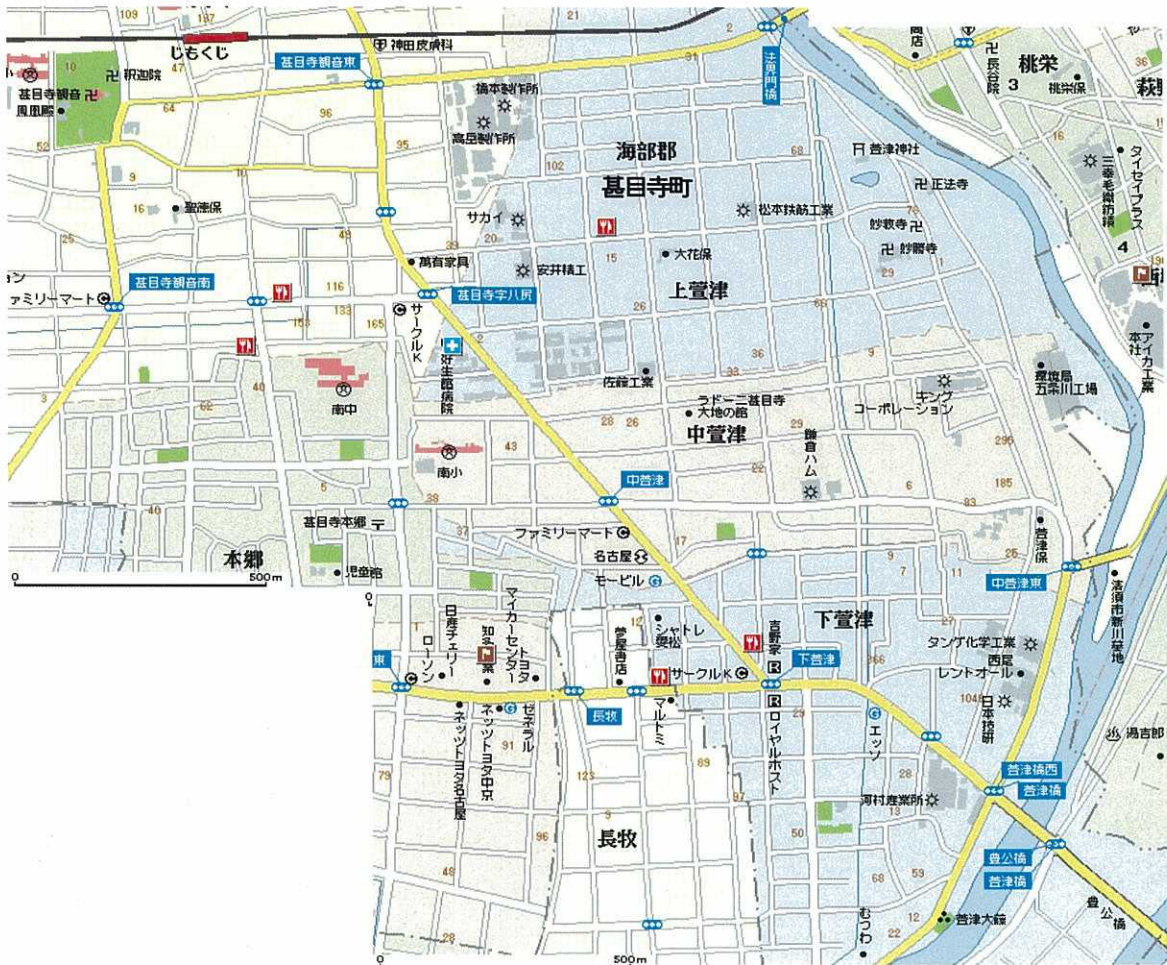
もっとも重要なのはコース設定である。季節に応じたコースの設定が大切である。暑く日差しの強い時期には、コースに水辺や木の多い場所を組み込む。また、水分補給のできる場所が必要で、休憩のできる公園などをルートに組み込むことが必要である。冬季は名古屋は意外に降雪があるので、足元の悪い場所を避け、なるべく都心のルートを設定する。

[資料4] 第30回の配布資料 (表紙のみ)

尾関学園高等学校 土曜講座

私鉄・地下鉄沿線歴史散歩 18年度第5回(通算30回)

- 1 日時 平成18年12月16日(土) 10:00~12:00
- 2 集合場所 名鉄津島線 甚目寺駅
- 3 散策経路(予定) 甚目寺駅(集合) → 鳳凰山甚目寺 → 萱津神社 → 旧鎌倉街道 → 豊公橋 → 地下鉄中村公園駅(解散)



3 フィールドワーク「私鉄・地下鉄沿線歴史散歩」の歩み

平成15年度からはじまったこの講座について17年度までを以下にまとめる。

通算	年度	実施日	集 合	経 由	解 散
1	1	2003/4/19	名鉄名古屋本線 神宮前駅	熱田神宮・七重の渡し・伝馬町	神宮前駅
2	2	2003/6/21	地下鉄名城線 市役所駅	京町通・円頓寺・名古屋城	市役所駅
3	3	2003/7/5	地下鉄東山線 覚王山駅	日泰寺・愛知学院・末森城址	本山駅
4	4	2003/9/6	地下鉄名城線 東別院駅	下茶屋公園・東別院・栄国寺	上前津駅
5	5	2003/10/11	地下鉄東山線 中村公園駅	豊国神社	中村公園駅
6	6	2003/12/6	栄駅 丸善前	広小路	矢場町駅
7	7	2004/1/17	名鉄 笠寺駅(積雪のため中止)		
8	8	2004/2/21	地下鉄名城線 市役所駅	白壁美観地区	高岳駅
9	2	2004/4/17	名鉄名古屋本線 鳴海駅	鳴海宿・千句塚公園・笠履寺	本笠寺・桜本町駅
10	2	2004/5/15	地下鉄東山線 新栄町駅	飯田街道・名工大・鶴舞公園	鶴舞公園駅
11	3	2004/6/19	地下鉄鶴舞線 川名駅	飯田街道・塩付街道・壇溪	川名駅
12	4	2004/7/17	地下鉄鶴舞線 八事駅	興正寺・勇人池	八事駅
13	5	2004/9/18	地下鉄鶴舞線 上小田井駅	平田橋 中小田井景観保全地区 小田井城址	中小田井駅
14	6	2004/11/20	名鉄名古屋本線 東比呂島駅	枇杷島橋・問屋記念館・旧美濃路	浅間町駅
15	7	2004/12/18	地下鉄名城線 伝馬町駅	七里の渡し・裁断橋	名鉄桜・地下鉄桜本町駅
16	8	2005/1/15	地下鉄鶴舞線 大須観音駅	大須観音・七寺・万松寺・伝馬通	地下鉄栄駅
17	3	2005/4/16	地下鉄名城線 大曽根駅	長母寺・守山城址	瀬戸線瓢箪山駅
18	2	2005/5/21	地下鉄名城線 茶屋が坂駅	上野天満宮・暗明神社・千種公園	
19	3	2005/6/18	地下鉄名城線 伝馬町駅	白鳥陵・断夫山古墳	西高蔵駅
20	4	2005/7/16	地下鉄東山線 高畑駅	荒子観音	高畑駅
21	5	2005/9/17	近鉄名古屋線 伏屋駅	前田速念寺・下之一色	権野バスターミナル・名鉄名古屋駅
22	6	2005/10/1	名鉄小牧線 上飯田駅	三階橋	上飯田駅
23	7	2005/11/19	地下鉄東山線 千種駅	丸山神社	地下鉄池下駅
24	8	2005/12/17	金山総合駅	尾頭橋・長良橋	近鉄烏森駅
25	9	2006/1/21	地下鉄名城線 西高蔵駅	松重閘門・古渡城址	地下鉄東別院駅

平成17年度まで25回を数えた。第7回は名古屋には珍しく前夜からの積雪で講座は中止となった。この反省をふまえ、冬季のコースについては積雪の影響が最小限となるようなコース設定を行ってきた。

参考としたのは、名古屋市役所のホームページに掲載されている史跡めぐりのお勧めコースなどであるが、必ずしも前掲の条件にあうものばかりではないので、独自のルートを準備している。『尾張名所図会』は、現状との比較で役に立った。

4 講座から学んだこと

(1) 環境問題、環境教育の点からの重要性

この講座のコース設定によって古い街道を歩く機会が多くなった。旧街道は人の道、牛馬の道であった。曲がりくねっているが、歩くのに適した道である。現代の道は自動車のための道であることが良くわかる。自動車にとっては高低差はあまり関係なく、なるべく直線的であることが望ましい。土

木工学の権威の方よりご教授いただいたのであるが、前近代の道は等高線に沿って作られており、「等高線理論」といわれるそうである。そういった意味では地形にやさしい、自然に優しい道だともいえる。防災情報機構の伊藤和明氏によれば、地震が起きた際、崩落が比較的少ないのは旧街道とのことである。自然との共生という点で環境教育という面からもアプローチできるのではないだろうか。

(2) 新たな発見の例・・・尼ヶ坂

名古屋市東区を走る名鉄瀬戸線に尼ヶ坂という駅がある。尼ヶ坂はこの駅の北にある坂道からきている。かつては鉄道と道路が平面交差していたが、瀬戸線の高架工事によって、現在は立体交差になっている。

尼ヶ坂の写真をみると、現在の自動車道が紹介されている。どうみても山を切り崩してあり、近年の工事によるものと思われる。

〔資料5〕 尼ヶ坂の現状 2007/3/9 14:00 筆者撮影



A地点・・・坂の北側からみた尼ヶ坂

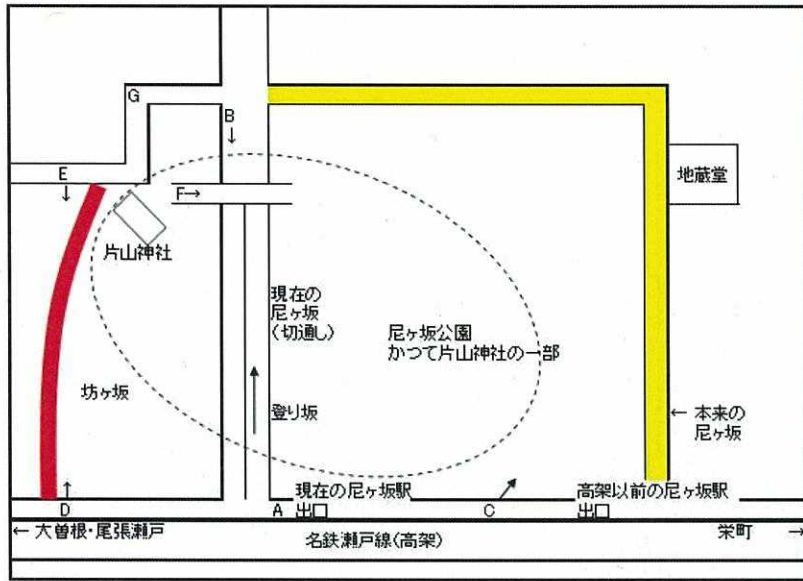


B地点・・・（坂の南側）からみた尼ヶ坂
元は同じ森だったのがわかる

同行された市民参加のAさんは戦前にこの駅から尼ヶ坂を上って旧第一師範学校（現在跡地は名古屋市立工芸高等学校）に通学しておられたそうだが、どうも昔の面影とは違うとのことであった。偶然出会った地元の方に伺ってみると、この切通しは戦後につくられたものであるとのことであった。本当の尼ヶ坂はこちらのカーブしている道で公園までは昔は片山さん（片山神社）のものだったとのこと。

尼ヶ坂の名の由来についてはいろいろと紹介されている。尼の悲恋物語が郷土史関係の書物に載せてあるのだが、信憑性に乏しい。だがこうして実際に現地を歩き地元の人々の証言をきくと、神社まで直線で一気に上る坂を坊ヶ坂、迂回して上る道が尼ヶ坂となるのではと推測される。助手のC教諭は身延山にも男道・女道というものがあると話していたが、現地に脚を運び、地元の方々のお話を聞き、60年前に通った市民の方のお話をきくと謎が解けてくる。

〔資料6〕 尼ヶ坂付近（南北は逆に表示）



〔資料7〕 尼ヶ坂周辺 2007/3/9 14:00 筆者撮影



C地点（尼ヶ坂公園を北から望む
奥が本来の尼ヶ坂）



D地点（坊ヶ坂の下から）



E地点（坊ヶ坂の上から）



F地点（現在の尼ヶ坂の陸橋・・・閉鎖中）



G地点…本来の尼ヶ坂（左）から片山神社へ（右）

まとめにかえて

学校の果たす役割を考えるうえで、土曜講座における取り組みが今後の私学のあり方を示す大きな転機になったことはいうまでもない。地域における学びの場の提供は私立学校のみならず、学校のもう一つの役目である地域教育の拠点としての位置づけである。

我々現場の教員にとって、実は教室も一つのフィールドであり、生徒から学ぶことも非常に大きいのである。これこそが現場の教師の強みであり、この立場を生かしてこそその教育の日々の改善が必要ではないだろうか。講座に参加していただいた市民の方々や生徒に感謝しつつ筆を擱く。

参考文献

- 『愛知県の地名』1981 平凡社
- 『国史大辞典』1997 吉川弘文館
- 『東区の歴史』1996 愛知県郷土資料刊行会